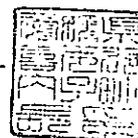


建第 933 号
平成 20 年 10 月 16 日

国土交通省 道路局長 様

内子町長 河内 紘一



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け、国道企第 37 号で依頼のあった標記の件につきまして、別紙のとおり回答致します。

地方が再三要望してきた、「道路特定財源の確保」の声は届かず、「骨太の方針2006」に基づいた見直しが粛々と進められ、本年5月13日に一般財源化を明記した「道路特定財源等に関する基本方針」が閣議決定されたことは誠に遺憾である。

一般財源化となれば、財源を巡って他省庁との綱引きが行われ、道路予算の減少や地方財政への影響が懸念される。また、暫定税率についても、厳しい財政状況を考慮すれば、現状のまま維持されて行くと考えているが、一般財源化するのであれば、暫定税率を廃止し、本則税率に戻すべきとの世論が加速して行くことも予想される。道路財源を巡っては、今後どのような展開を見せるのか不透明であるが、必要な地方道路の整備は確実に進めるとともに、地方財政に影響を及ぼさないだけの財源の確保について強く要望するものである。

～全般的な要望・提言について～

1. 暫定税率は維持し、地方の財源確保と道路整備に重点配分を。
2. 費用便益比に偏った事業評価では無く、地方の実情を考慮した事業評価を。費用便益比は一指標にすぎない。
3. 重点化という点では、地方の危機的状況から見て、地域活力の向上を図るための道路整備が最優先されるべきである。
4. 効率化を図るうえでは、1.5車線の整備手法に加え、道路構造そのものの柔軟な見直しが必要である。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状	○課題
<p>内子町を取り巻く状況は、危機的状況といっても過言ではないほど非常に厳しいものとなっている。特に差し迫った重大な危機としては、「人口の減少」、「基幹産業の衰退」、「財政のひっ迫」の三点が上げられる。</p> <p>町においてはこれらの危機をしっかりと受け止め、少子高齢化対策や定住促進、基幹産業である農林業、観光などの再生施策、徹底的な行財政改革を行うなど、この危機を乗り越えるために必要な方策を打ち出し、目指すべき将来像の実現のための取り組みを行っている。</p>	<p>町における差し迫った危機には、それぞれ根深い要因や背景がある。特に「人口の減少」や「基幹産業の衰退」については、少子高齢化や若者層の流出などが最大の要因であり、地方に共通する深刻な問題である。これらに歯止めをかけるためには、子育て支援や雇用場所の確保といった積極的な施策を展開する必要があるが、なによりも、この地域で子供を育て、安心して生活していけるだけの最低限の生活基盤の整備が必要である。</p> <p>特に自動車交通に依存している当町においては、通勤、通学、救急医療、防災など生活面はもとより、農林業の再生、観光の促進などあらゆる面において、その根幹となる道路の整備が喫緊の課題となっている。</p> <p>また、自主財源の乏しい当町においては、三位一体の改革による交付税の削減によって、財政がひっ迫し、予算規模の縮小や徹底的な無駄の見直しなど改革を進めている所であるが、今後、道路特定財源の一般財源化に伴う暫定税率見直しなどが行われることにでもなれば、更なる減収は目に見えており、道路整備はおろか、適正な道路管理さえ困難になってくるのではないかと非常に危惧している所である。</p>

②-2 地域の目指すべき将来像

当町が目指すべき将来像は、「住んでよし、訪ねてよし、美（うま）し内子」である。

当町には先代から守りつがれてきた歴史的町並みや村並み、そして山並みといったかけがえのない貴重な財産がある。これら貴重な財産の保全や活用を図るとともに、そこに住む人の生活や産業を守り、地域の魅力を高めていくことで、「住んでよし、訪ねてよし、美（うま）し内子」の実現を目指している。そのためには、そこに住めない、住みたくない、訪れたくないという今の環境を改善する事こそが、目指すべきまちづくりへの第一歩であり、まさに道路整備なのである。

生活基盤の改善、産業振興、交流拠点へのアクセスなど、地方にとって山積する課題を解決し、目指すべきまちづくりを実現させるためには、どうしても道路がなければ成り立たない。地方もしっかりと将来を見据え、今、地方がしなければならない事には更なる努力を行い、国も地方の実情を的確に把握し、最大限の支援をして頂くなど、双方の協力のもと、地域再生を図っていくことが重要である。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

愛媛県 内子町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国 8 の字ネットワークの早期実現 	<p>四国共通の要望であり、地域活力の向上のみならず、その効用は多岐に渡る。生活、経済、産業などあらゆる面で四国四県を支える基礎地盤となる。また、道州制の議論も踏まえ、早急な整備が望まれる。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマート I C 内子 P A 構想 	<p>高速道路の利用促進や付加機能の強化を図るとともに、町内外への流通の円滑化を図り、広大な町土を有する当町の東部地域住民の安全性や利便性の向上、観光支援などが期待される。ただ、社会実験の省略化や町が実施するアクセス道路の 1.5 車線的整備について、柔軟な対応を検討されたい。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり支援 	<p>当町では旧町間を結ぶ幹線（国道 379、380 号）でさえ整備が終わっていない。そこに至る県道などについては整備の目途すら立たない状況である。前述した町が目指そうとするまちづくり支援のためにも、中期計画においてはこのような地方道路整備に重点を置いた施策の展開に期待する。</p>	